

# 犬猫における気管支鏡検査-気道内治療 III-

城下 幸仁 (相模が丘動物病院・呼吸器科)

## はじめに

260例ほどの犬猫の気管支鏡検査実施の中で、気道内治療を行う機会が生じてきた。昨年に引き続き、気道内治療の手法と実際について述べる。

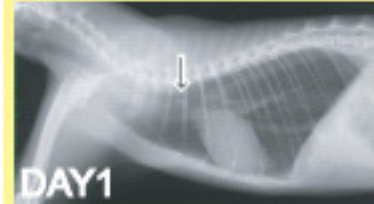
## 6) 気道内治療

とくに気管内異物回収は急診を伴う。適切な器具を取りそろえ、緊急外科にも備える。気管内異物は卵で、小石、小枝、燻物片、梅皮の種がある。気管分岐部以降では、特に狩猟犬で、草ノギや葉状物が多い<sup>1)</sup>。合併症は、気管内出血、縦隔気腫や気胸である。犬猫の気道異物の79%は軟性気管支鏡のみで回収できたとの報告があるが<sup>2)</sup>、大きく硬い気管内異物は硬性気管支鏡 (図1) が必要な場合もある。以下症例を示す。



図1 硬性気管支鏡 (MVE-VB250 株式会社同善製作所) - 気道確保と同時に気道内処置が行える。鏡子の操作性が高い。

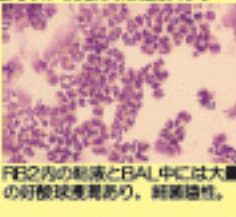
症例1 雑種猫、メス、7歳。体重2.90kg。3週間前より突然呼吸困難が始まった。



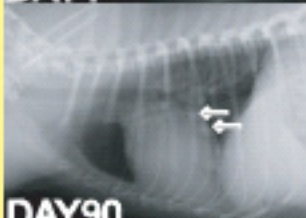
初診にて気管挿管の難いありとのことで検査加療のため他科呼吸器科に来院した。気管支鏡検査にて気管内異物と診断し、その場で急性性腫下にキュレットを用いて異物を回収した。異物は、大きさ10mm×7mm×4mm、黄白色から白色の軟家畜肉種の「オアシス」の一部と推定された。気管内異物回収後2日目に呼吸器X線にて肺動脈後葉は消失し、一般状態も改善し退院となった。



症例2 シーズー、メス、5歳。体重5.98kg。激速呼吸、急性発症、胸部異常陰影あり

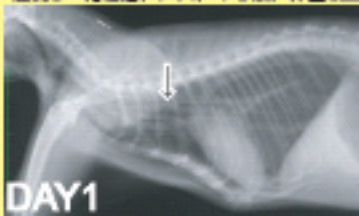


FB2内の刷取とBAL中には大量の好酸球浸潤あり。細菌陰性。



初診にて10日間の治療するも改善なく呼吸器科紹介受診となった。右中葉野に急性性浸潤を伴ったびまん性陰影がみられ、重症の肺動脈血腫 (Paox 59mmHg) であった。45日間のPV療法にてPaoxが72 mmHgまで改善したため、気管支鏡検査を行った。右中葉気管支内に黄白色の肉塊が貯留していた。気管支鏡先端と肺主幹にて別動脈性気管支鏡前と診断し、スチロイド治療を開始した。呼吸野陰影も消失したが、右中葉気管支内に軟家畜肉種の「天印」が残った。第90日、再度気管支鏡検査を行った。右中葉気管支内に黄白色の軟性肉塊の異物が3~4個見つかり、吸引チューブやキュレットを用いて回収された。その後、肺野の陰影も消失し、スチロイド投与も中止したが呼吸野陰影も再発していない。飼い主曰く「口の臭い」がみられなくなった。

症例3 雑種猫、メス、13歳。体重3.22kg。2日前より急性呼吸困難、喘鳴あり。



アツの骨を食べてから呼吸困難になった。気管支鏡検査にて肺野の一部を摘出し、気管に引っ掛かっていた部分を摘出することで摘出した。気管穿孔や浸潤はみられなかった。

## 参考文献

1. Tomichle AC, Johnson LR, Hunt GB, et al: The role of bronchoscopy for foreign body removal in dogs and cats: 37 cases (2000-2006). J Vet Intern Med 24, 1069-1098 (2010)